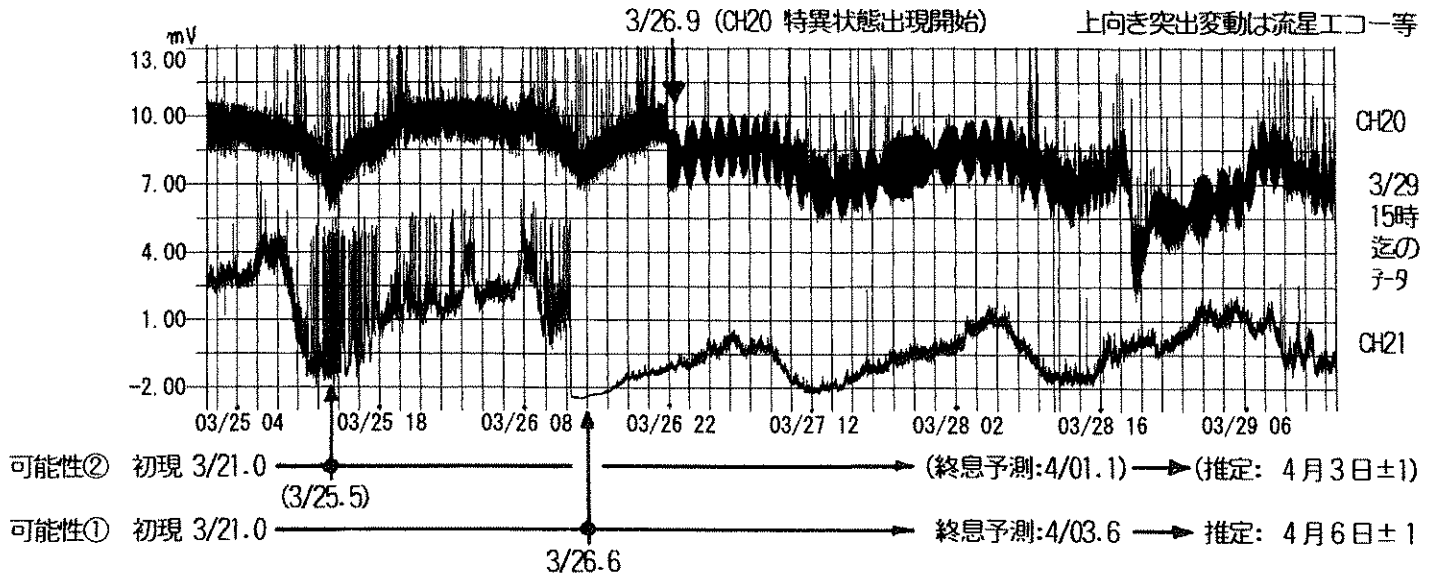


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 次予報のCH21極大=3月26日の可能性→4月6日±を示す可能性



前号の情報では、No.1778第14予報とNo.2710の次の予報として初現=3/21 (CH17系状特異継続) に対する極大が、前予報が示す3/25か、CH21系状特異出現の3/26、更には3/27以降の可能性の3種と考えました。CH21が本日3/29昼前迄に顕著な特異状態が静穏傾向となれば3/27極大の可能性も考えられましたが、上波形のとおり3/26以前の基線状態には復帰しておりません。このことから極大は3/25又は26の可能性が高いと認識されます。

3/25は前予報が示した日ではありますが、No.1778では、一日程後に別に次の予報の極大が出現した例が観測されています。

上波形上基線はCH20で、通常基線だったCH20が3/26夜から弱い不規則特異状態に変わり継続しています。極大直後からこの様な特異状態や基線幅増大BTが継続出現したケースは過去例に多く認められます。更にCH21基線は3/26午後は基線電圧値が最低値で完全系状態となりましたが、その後は山状に変化しながら徐々に最低電圧値が上昇しています。前予報が示した3/25には確かに極大が観測されてはおりますが、一日後の3/26の完全系状態は無視できない顕著変動と考えます。3/26の系状態が

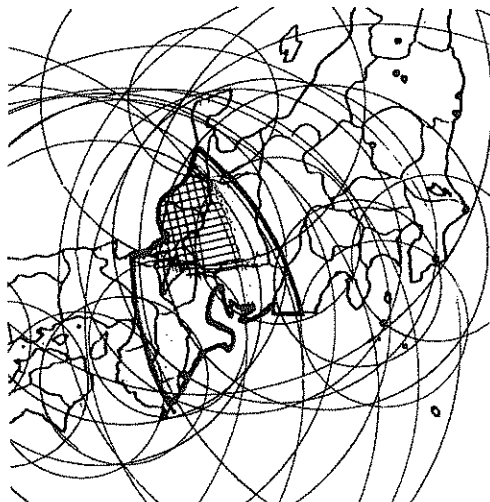
3/25極大直後から出現した特異状態とするには丸一日経てからの出現であること、CH20特異は更に遅れて継続出現したたことになり、過去例とは差異が認められることとなります。これらのことから3/26午後が極大である可能性は十分考えられます。

Tfap:Tmap=20:13 経験則を使用して発生日を計算する際、初現は3/21の午前3時頃(3/21.1)認識ですが、初現誤差を考慮して、上は3/21.0を初現として計算してあります。この認識では4月6日±の可能性を示すこととなります。

◆但し、CH20特異が極大直後から継続出現したものではなく、次極大の初現であった場合は、初現=3/26.9、極大=4/5-6の様な前兆変化が出現する可能性もまだ完全否定できません。この場合は4/23~25±を示すことが計算できます。4月5日段階で前兆継続の場合は、この可能性が高いこととなります。

仮に現在が最終段階で4月6日±が地震発生日である場合は上枠内のとおり、4月3~4日にCH17, 20, 21の他、秋田観測点のA1-BT等もまだ継続中ですので、これらの終息が観測される筈です。この終息変化を観測した場合、また左記推定を修正する必要がある前兆変化を観測した場合等は続報で報告させていただきます。

極大 仮定	以下の日に終息した場合	推定される発生日
3/26.6	4/2.9±	4/5±
3/26.6	4/3.6±	4/6±
3/26.6	4/4.4±	4/7±



◆推定領域：左図 太線内領域=大枠推定
斜線領域=可能性考え易い領域
ダブル斜線領域=参考推定領域

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：前兆変化及び終息を観測後計算予定
現状考え易い推定=4月6日 (最大誤差±1日)
(但し4月3~4日に前兆終息が条件)
※前兆が早く終息した場合、また4月5日以降前兆が継続し、4月23~25日を示す可能性が考えられる変化が観測された場合等は、続報で修正報告予定。

◇推定発時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)

◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震 C) Copyright 2016 YSBO八ヶ岳南麓天文台